

「地域を愛し、自分で考え、自分で行動する子ども」を育てる

コミュニティ・スクール 通信

令和3年度 第4号 10月11日

日の里学園コーディネーター 北岡 隆博



「ドミノ倒し大会」「紙飛行機大会」

10月3日（日）に、日の里中学校の体育館で、日の里まちびらき50周年記念事業実行委員会主催の「ドミノ倒し大会」「紙飛行機大会」が行われました。

この大会は、当初6月13日に実施する予定で、まず、3月2日に中学生を交えた企画委員会①が実施されました。その際、中学生たちに「ドミノのデザイン考案シート」が配布され、4月21日の企画委員会②でアイデアを出し合いました。

コロナの影響で大会の実施が危ぶまれる中、6月30日の企画会議③で17個のデザインが確定し、9月22日の企画会議④で「からくりドミノ」のアイデアを出し合い、10月3日の本番を迎えました。



当日は、ドミノ大会と紙飛行機大会を合わせて350人を超える参加者がありました。

ドミノ大会では朝8時から、17個のデザインを分担して、それぞれ数人のグループに分かれ、集中してドミノを並べました。小中学校の教師も参加し、協力して取り組みました。数時間かけて並べたドミノが一瞬にして崩れる悲劇があちこちで生じましたが、グランドフィナーレでは、全ての関係者が手を携えてつながり合っているような、見事なドミノアートが完成しました。

紙飛行機作りでは、日本紙飛行機協会の方から作り方を親切に教えてもらったので、小学校低学年の子どもたちも飛行機を完成させることができました。作成した飛行機を外で飛ばすと、子どもたちの思いを乗せて未来に舞い上がるように、空高く飛ぶものばかりでした。

この大会でも、学校・地域の共通目標「自分で考え、自分で行動する子どもの育成」が企画段階から重視されていました。大変ありがたいことと感謝しています。



